

# 羽田 佑

ハダ タスク



今回は救命処置を学び、地域の方向けの教室を開くなどの活動を行っているサークルOkayama Save A Life (通称: OSAL) の代表、医学部医学科4年生の羽田佑さんに救命救急活動にかける思いを聞きました。

## 少しでも多くの人の命を救うために

救命サークルOSALは平成一七年から有志で活動していましたが、正式なサークルとして認められたのは二年前からです。あくまでもボランティア活動なのですべてのイベントに全員が集まるわけではありませんが、部員数は30名以上。鹿田キャンパスの医学部医学科と保健学科、歯

学部その他に、津島キャンパスから薬学部の学生も参加しています。

救命活動には医療従事者が行うALS (Advance Life Support) と心臓マッサージなど一般の方でもできるBLS (Basic Life Support) の二種類があります。OSALの活動は、以前はALSの勉強会がメインでしたが、数年前からはBLSの講習も積極的にを行っています。

少しでも多くの人の命を救う

ためには、もちろんALSの技術を磨くことが必要です。でも、「病院に来たら助けるけど、それまでは知らない」ではいけませんよね。病院に来るまでの時間をつなぐためにはBLSの普及も大切。どちらもおそろかにならなければいけないと思います。

## ゼロでなければやる価値がある

最近では地域の方向けにBLSの一つとしてAED (自動体外式除細動器、救命処置に使われる装置) の使用法を講習することが多いです。AEDは一般の人でも使えるのが大きなポイントです。保健の授業などのおかげで若い人には普及してきましたが、まだAEDの使い方、心臓マッサージの方法が分からないという世代は多い。

ALSの勉強会でもそのことを知ったのが、OSALに入ったときからあります。心肺停止の際、処置をするまでの時間で蘇生率は大きく変



わるので、そばにいた人がすぐに処置することが大切です。そんな場面に遭遇したとき、BLSの経験があれば、何をすればいいのかわかって、動けるようになります。講習は何かあった時に動き、近づく勇氣を持てるようにするための活動でもあるのです。AEDの講習を受けた人がそういう場面に遭う可能性は低いかもしれないけど、ゼロではない。助けられる命が一人でも増えるなら、やる価値はじゅうぶんにあります。

今は、老人ホームのスタッフの方向けの講習や、商店街でブースを設けてBLSの普及活動をしています。一番大規模なものでは、広島大学と協力して広島

球場でカープの試合前イベントとして

BLSの普及活動をさせていたいただきました。まだオファーが少なく、不定期にしか活動できないのがつらいところです。

## 患者さんの立場に立てる 医者になりたい

一人でも多くの人を救えるように、救急患者が来ても専門じゃないから無理、と断るのではなく、オールマイティになんでもこなし、同じ目線で患者さんの声を聞き、相手の立場に立った医療を施せる医者になるのが目標です。BLS講習は一般の方と触れあい、相手のことを理解する訓練になるという点でもためになっています。

現在4年生ですが、来年度の夏休み明けまでは活動を続ける予定です。来年度、全国から学生を集め、二日間かけてBLSなどを学ぶワークショップを開くのが私のOSALでの活動の集大成になります。

これからもBLS講習で蘇生の輪を広げ、非常に皆が無視するのではなく、皆が駆け寄り、社会にしていければ、と思います。